



二つに割って中を見ると。左から完熟堆肥区、未熟堆肥区、化学肥料区。球のしまりの差が歴然

われたためか、葉には黒腐れ病のまだら症状、株元に菌核病のカビなどが生じています。

未熟堆肥区は、後半にはいって食品残渣の分解も落ち着き、堆肥の効果（物理性の改善や養分補給など）が発揮されたのか、根に若さがあります。

■ 香りと甘味が強い完熟堆肥区

次に、キャベツの球を割ると、まずちがうのは香り。完熟堆肥区のキャベツからはいいにおいがただよってきます。そして、断面の葉の密度と球のしまり。上の写真でわかるように、完熟堆肥区がもっともしまりがよく、未熟堆肥区、化学肥料区となるほどすき間が多くなっています。

汁液を絞って（球の外から心までの葉をくりぬいて絞る）糖度を測ると、完熟堆肥区 6.8、未熟堆肥区 5.8、化学肥料区 5.3。小玉で寒中に熟したキャベツのためか、全体に高い数値ですが、完熟堆肥区がとくに甘く味の濃いキャベツになりました。



汁液を絞って糖度を測る。完熟堆肥区は 6.8 度と高く甘味が強い

■ 硝酸態窒素は未熟堆肥区が高い

一方、収穫期近くになっても窒素が吸われ続けると（おそ効き）、硝酸態窒素が体内に残り、これがエグ味や苦味になって味を落とします。汁液を絞って簡易に成分測定ができる RQ フレックスという器械で測ってみました。

完熟堆肥区が 90mg / kg ときわめて低い数値です。化学肥料区が後半に窒素吸収が減ったためか 230mg / kg という低い結果になりました。一方未熟堆肥区は、分解された窒素が後半になって効きだしたため、480mg / kg と高くなっています。未熟堆肥の使用は、スタート時点で幼植物に障害が出やすいこと、おそ効きして品質を落としやすいことに、注意が必要です。



RQ フレックスで硝酸態窒素を測る